

中富記念くすり博物館だより

2024年6月1日発行 No.338

NAKATOMI MEMORIAL MEDICINE MUSEUM



6.7月イベント情報



✓薬研体験

昔のくすり作りの道具「薬研」を使って香り袋を作ります。今回は3種類の香りから選んで作ります。



開催日：6月毎週土日
料金：200円（別途入館料）

✓カレースライス作り！

スパイスの薬用効果を知り、昔のくすり作りの道具「薬研」を使ってカレースライスを作ります。



開催日：7月27.28日
8月1.3.4.7.10.11.12日
料金：1組1,500円（別途入館料）

↓イベント詳細はこちら↓



公式HP



Instagram



facebook



LINE@

フォトコンテスト2024春
たくさんのご応募ありがとうございました。
結果はHPIにて公開します。



ミュージアムショップ

フレッシュ

暑い夏はこの子にお任せ！

一見、オブジェの様に见えますが実は吸湿、脱臭をしてくれる働き者で、靴箱やトイレ、食器棚などを爽やかな香りにしてくれます。材質は湿気をとる珪藻土、ニオイ除去に効果的な炭とリサイクルアッシュです。顔のパターンは6種類で、ウインクしている激レアな子もいるらしい。。。

半年ほど頑張ると湿気と匂いでお腹いっぱいになるので通気性の良いところに置いてデトックスさせてあげてください。



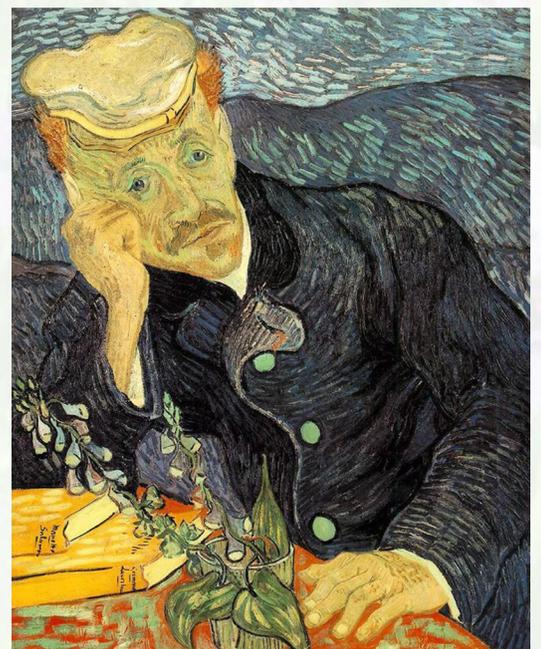
税込：1,210円

薬草美術館 絵画の中の植物をご紹介

作品の男性は晩年ゴッホの主治医をつとめた精神科医ポール・ガシエ。片肘を付くガシエはどこか気だるそうで、この心模様は背景の沈んだ色や曲線からも読み取れます。

左手元の花瓶に生けられているのはヨーロッパ南部原産の植物ジギタリス。葉を乾燥させたものを強心薬として用いるのは有名な話ですが、この作品が描かれた当時、ジギタリスは心臓病治療に有効であると評判の高くすりだったことから、ゴッホは「医師を象徴する花」として描いたとされます。

またジギタリスの成分には黄視（視界が黄色く見える）の副作用もあり、代表作《ひまわり》など黄色が多く使われているのは、ゴッホがてんかんの治療の際ジギタリスを含むくすりを服用していたことによるものではないか、と述べている学者もいます。



フィンセント・ファン・ゴッホ《医師ガシエ像》1890年頃、個人蔵